

躍進を続けるアンコール・アン、オリジナル原材料からその先へ

アルカンオイルやマリンスルトなどのオリジナル原材料を販売し、さらにそれらを使った化粧品品の製造を営むHJMまで幅広く活躍する株式会社アンコール・アンの伊豆味さきみ子社長に、経営コンサルタントの山田修氏が今までの会社の経緯や商品開発についてインタビューを行いました。

山田 賢樹

伊豆味社長は日本にアルカンオイルを広めた方と伺っています。

伊豆味 返答

アンコール・アンは、オリジナル原材料の販売が特徴となっております。その中の一つですが、コヌメ用アルカンオイルは私どもが日本での流通のきこかけにあります。

実はアルカンオイルと出会うのも偶然かなのです。営業マンがお客様をお尋ねした際に、アルカンオイルの輸入を引き受けてもらえないか？というお話を受けてきました。そこから市場調査と準備を半年くらいかけて行い、今までにない素材を扱っている価値があると思い、アルカンオイルを取り扱うべく決断をしました。平成18年のことです。

当初は、アルカンオイルに関してのデータや情報は殆ど何もないところから年月をかけてここまで来ました。昔

からベルベル民族が生活の中でずっと使っていたものです。オイルはもともと肌浸透しにくいのですが、アルガンオイルは使ってみるとオイルなのにベタつかない、という特徴があります。そう思っていただけだとでも嬉しいです。私たちは時間と費用をかけてここまで育てたという自負があります。

伊豆味社長はアルカンオイルの言教師な訳ですね！

アルカントールというブランドはどのようにして出来たのですか？



社長がアンコール・アンをやっていたことになった経緯はどのようなものだったのですか？

一、二では申し上げにくいのですが、はじめは全く別のことをやる予定で設立した会社なのですが、設立1年後に諸般の事情があり、前勤務先の会社の事業譲渡を受け、社員を含めて会社を受けることになりました。お陰様で、社員は勿論ですが、留年先、仕入先、金融機関のご協力を得て、今年16期を迎えることが出来ました。

オリジナル原材料の取り扱いにはどのように考えていますか？

私は、会社設立以前18年間この業界にお世話になっていました。その経験から、オリジナル原料を持つということに強い意味を感じています。現在は4種類の原材料の取り扱いですが、最終的には10アイテムは揃えたいと思っています。

立ち上がりのお客様には、原料だもともと当社のお客様には、原料だもともと当社のお客様には、工場をお持ちでなく商品を作った欲しいというお客様と通じます。

はい、最初の頃はアルカントールというのは手搾りブランドの区分けとして、単にアルガンオイルではなく、アルカントール、アルカンオイルをアルカントール・シャパンのブランド名として確立させてきました。今では手搾り商品をアルカントールとして、機械搾りをアルガンオイルCPとして、双方の特徴を生かしてお客様に対応できるようにしています。

アルカンオイルについて他に特徴はありますか？

CSRの1つとして、私どもが取りしているリフトウィット社と協力してフェアトレード認証を取得しました。モロッコでの、この認証取得は、今後にますます期待が持てると思います。量的なお取り扱って日本でも一番の大手になっていらっしゃいますね。

私どもは、アルカンオイルについてもお聞きしました。

マリンスルトは私共の商標ですの供給は、私共が行っています。最初は、クチャの塊を持って営業に行きました。ところがお客様は皆さん同じように、「これを粉にしてくれ」とか、「粉にしない」と扱ってくれたいという要望を受け、粉にするための研究を重ねマリンスルトが生れました。

マリンスルトとの出会いは、平成13年に開発者の伊藤先生から研究の話



お聞きしたのが始まりです。マリンスルトはもともと沖縄でクチャと言われている素材なのですが、その素材を化粧品原料として使えるまでの製造工程に時間をかけて開発してきましたので、お客様に安心して使っていただけたということが言えます。

マリンスルトにはどのような特徴がありますか？

マリンスルトの特徴は吸着力です。それが優れているのは肌を傷めずに汚れだけを取るという点です。吸着という研磨的な役割を考えますが、タンバクや汚れているものだけをマイナスで吸着します。粒子が揃っているのも特徴です。更に、湿式という製造方法で時間をかけて製造しているの他の原料と馴染みやすいというのも特徴です。

伊豆味社長が沖縄出身ということで沖縄の素材を手広く扱っているということだと思いますが、他にはどんなものをお取り扱いですか？

やはり、フタバラセンタを去年の8月に商品化しました。私の故郷であり

お客様のOEM商品の依頼は、外注先へ依頼していましたが、時を同じくして、依頼先のOEM外注先三社が会社を閉めてしまい、その時使用していた使用機械を安く譲っていただいたことでもツカケの一つです。また、お客様にも自分たちで責任を持ってOEM商品はお届けしようと考えたのがスタートです。それで工場を建てました。

会社名はなんと言ったのですか？

株式会社コスメティック・パリーライとします。

主にどのような化粧品を作っているのですか？

化粧品は口紅とマニキュア以外でしたら製造できます。私とも工場の特徴は、粉の製造ができるという点です。コスメティック・パリーライでは、ハラル認証の化粧品を作ったことが話題になっていきますね。

お客様からの依頼で作った商品がハラル認証を取得したことから、工場ラインの、ハラルの認証を受けることができました。そのこともあり、問い合わせが多く来ています。日本ではハラル認定工場は他にもありますが、商品を作ったのは私と私が初めてだと聞いております。

社長が今までに影響を受けた本はなんですか？

テールカーネギーの一人を動かす、という本です。

【プロフィール】
伊豆味さきみ子
沖縄出身。株式会社アンコール・アン代表取締役
山田 修
(有)MGA 経営代表取締役。経営コンサルタント、ビジネス評論家。
外資4社、日本企業2社で社長を歴任。「企業再生経営者」と称された。

【問い合わせ先】
ENCORE! ANN
株式会社 アンコール・アン
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 17-13
TEL.03-6661-7271 FAX.03-5642-8021 http://eai.jp/



まず伊平屋（ハヤシ）のちすくを化粧品原料として開発していますが、大きな商品化までにはなっていません。それから沖縄には海のものや葉草という素材がたくさんあるので、それを原料化するということによって魅力がからち業界に貢献していきたいと思っています。

沖縄に拠点をもちたいと聞きます

現在着々と進んでおりますが、今年度中には新しい拠点を沖縄に置く予定になっております。

それは製造拠点ですか、それとも支店のようなものですか？

製剤と研究開発を兼ねてです。研究開発というのは沖縄の素材を原料化するための研究開発で、それによって